

●なぜ高校の先生が保育園??

堤: 何で保育園かっていうと、家族から反対されまくっている中で、うちのお袋が子供が大好きだったんです、それで話し合いの中で、“保育園だったらもうギリやっていい、私も将来、保育園に入って子供たちにまみれて過ごしたい”という、言わばかなり甘い考えから事業が始まりました。

宮本: いやいやいや…ビジョンが大事。

堤: まあ、為せば成るでしょうね、本当。

宮本: すごいな、そこから保育園事業をすぐに始められたんですか？

堤: そうですね、多分辞める1年間ぐらいいろいろ仲間っていうか、賛同してくれる保育士さんの皆さんとか集めて、なかなか**やっぱり事業するって本当大変**ですよ。本当ド素人でやるって言っても、やっぱり人様にお願いして雇用して、そして事業作って、何か生業に対して責任持って仕事をする。もうこの一連の話し言葉にすれば簡単ですけど、ものすごく大変で、本当に事業されている皆さん本当にすごいなというのは感じますね。

宮本: いやびっくり、でも最初の園児の方っていうのは何人ぐらいからスタートしたんですか？

堤: そうですね、多分10何人、20弱でそのうちの3分の1ぐらいを保育士さんのお子さんじゃなかったかな。保育士さんが、自分の子供を連れて一緒に楽しくできる保育園を作りたいというのが理念の一つで、その思いの中で作ってたんでそういうことありましたね。

宮本: なるほど。普通ね、違うところにあずけたりしますもんね。

堤: そうですね、最近はどうでもないんでしょうけど、昔はやっぱり一緒に働いていたら、自分の子供にちょっと甘くなっちゃうとか、そういうことを言われていて、一緒に働けない保育園が多いということで、もちろんそうじゃない保育園もあったんでしょうけど、それに対して保育園の先生もしながら、お母さんもしたいという風な場を作りたいかかったっていうのが一つだったみたいですね。“たんぽぽ園とみのはら”っていう名前で始めました。

宮本: 土地とか建物は…

堤: そうですね、その時にいろんな方と出会って、あの当時工務店をされた社長と出会ったのが良くて、富の原の土地とか建物をお世話していただいて、何とか我々のようなド素人の状況でもやれてきました。いや本当、いろんな方との**出会いっていうのがやっぱり一番大切**でしたね。

宮本: すごいな。最初の頃から、堤さんももう事業に参画してご一緒に？

堤：そうですね。私もこんな感じなんですけど、当時は保育士さんから、また子供たちからも一応お兄ちゃん先生と言われて、親しまれていました。最初は本当手伝い程度でしかやるつもりはありませんでしたね。最初は。

宮本：お父様は、始められた時には保育士さんというより経営者として事業を進められていたのですか。

堤：そうですね、先ほど言ったように、うちの親父は多分、一国一城の主になってみたかったんでしょうね、恐らく。

宮本：そこからご一緒に事業されてきたんですね。

堤：そうですね、基本的には私の方が保育園事業で、認可外保育園から始めたんです。何も知らなくて始めたんで、今考えたら簡単に成り立つわけがないんですよね、当時は保育士さんを含め8人、9人から始めましたけど、やっぱり赤字経営が続きました…。

宮本：そうなんですか？